

Once upon a time in Utsunomiya

# 一枚の絵葉書から

石井敏夫コレクションより

第72回

# 二荒山神社点景

二荒山神社の宝物。右から鉄製狛犬、三十八間星兜、宝鈴



宇都宮二荒山神社、宝物

下野国一之宮として近郷近在の老若男女から崇敬を集める二荒山神社には、度重なる火災から焼失を免れたいくつかの宝物が今に伝えられている。

藤原秀郷がかぶっていたと伝えられる三十八間星兜は、重さ二キロ、高さ十八センチあり、鉄製で裏面より鉾を打ち込み星形を表している。つくられたのは南北朝末期と伝えられるが作者は不明。星兜の起こりは、三十八ある兜の座に打ち出された鉄鉾が星の形をしているところから称されるようになった。

一九三四(昭和九)年、国重要美術品指定。

建治三年二月(注・一二七七年

鎌倉時代)吉田直連施入の銘のある鉄製狛犬は、佐野天明鑄物の逸品と伝えられる。重さは約二二キロ、高さ三十六センチ。もとは一対あったそうだが、度重なる火災のため一体を残すだけとなった。残った狛犬も左前足が折れ、体全体も火災を受けた傷痕が見られる。また狛犬という

と唐獅子があてられるが普通だが、この狛犬は日本犬を模してつくられているところが特徴的。鉄製日本犬は全国でも例を見ない二荒山神社だけに伝わる文字通り宝物だといえる。一九三五(昭和十)年、国重要美術品指定。

二荒山神社に古くから伝わる神事の中に田舞祭と呼ばれる祭りがある。しかし、祭りといっても菊水祭や天王祭のように神輿を担いで街中を練り歩くものではない。田舞祭とは、その名の通り、二荒の神に田楽舞を奉納し、五穀豊穣を祈る神事である。毎年、五月十五日と冬渡祭(十二月十五日)、

春渡祭(二月十五日)の日に拝殿前の石畳で行われる。



宇都宮二荒山神社、拝殿前

拝殿の前で行われる田舞祭

この田楽舞は、その昔、二荒山神社の神領地であった旧豊郷村(現堀米地区)の農家六世帯に代々伝わる伝統芸能で、演じるのはこの六世帯の長男に限定。袴、白足袋、藁草履に、一見奇妙にも見える赤布を垂らした丸笠をかぶり、田楽舞唄にあわせて笛、太鼓を奏でながら田楽を舞うその姿は、豊作を祈る農民の素朴な信仰を垣間見るような気がする。一九七八(昭和五十三)年無形文化財指定。

この他にも二荒山神社には、宇都宮氏の文化を知る上で貴重な、全十巻からなる「新〇和歌集」などが残されている。